

報道関係各位

SC年間販売統計調査報告2019年

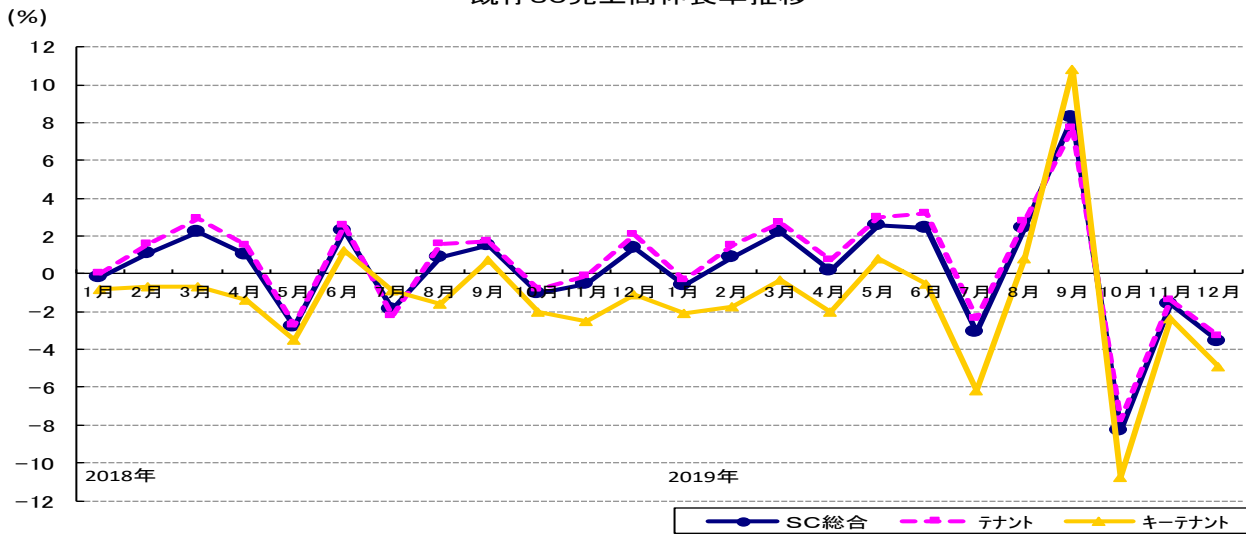
既存SC前年比: +0.4%

SC年間売上高(推計) 32兆583億円(前年比+1.1%・消費税抜・全SCベース)(速報値)※

<全体概況>

- 2019年(暦年)の既存SC売上高対前年比は+0.4%で僅かに前年を上回った。内訳はテナント総合が+0.8%、キーテナント総合が同▲1.5%。年間を通じては、消費増税前の9月までは1月と7月を除いて前年を上回り堅調に推移し第1四半期(1~3月)から第3四半期(7~9月)までは前年比プラスとなった。なかでも9月は総合で+8.3%と増税前の駆け込み需要で大幅なプラスとなった。一転して、10月は買い控えによる反動減や大型台風の影響もあり総合で▲8.3%まで落ち込んだ。11月以降も消費増税や暖冬による冬物商品の不振もあり11月、12月と連続して前年を下回り第4四半期(10~12月)は▲4.3%となった。
- 立地別・構成別をみると、テナントは婦人衣料をはじめとした衣料品全般が秋冬物を中心に不振だったものの、飲食やサービス関連業種が好調で、全立地で小幅ながら前年を上回り底堅さがみられた。キーテナントは208SC中154SCで前年比マイナスと多くの施設で苦戦がみられ全立地で前年を下回った。
- 立地別・地域別をみると、9地域中6地域で前年を上回り全体的には堅調だった。マイナス幅が▲4.1%と最大だった中国地方の中心地域は、広島市の中心地域で不振が続いたことなどが要因となった。
- 都市規模別・地域別をみると、22の都市・地域のうち17の都市・地域で総合では前年を上回り全体的には堅調だった。総合で大都市が+0.1%、その他の地域で+0.6%と小幅ながらもプラスとなった。内訳をみると、テナントは全国的に堅調だったが、キーテナントは大都市以外の全ての地域では前年を下回るなど苦戦がみられた。
- 全SCベースの年間売上高は推計で32兆583億円(速報値・消費税抜)で前年比+1.1%となった。

既存SC売上高伸長率推移



※2019年1月以後、本調査の売上高は消費税抜で集計・算出しています。(2018年12月以前の調査は消費税込)

2018年12月以前の調査(税込)には、一部「税抜」の調査サンプルが含まれます。

2019年SC年間売上高(推計)は、2018年SC年間売上高(推計)をベースとして算出していますが、ベースとなる2018年SC年間売上高(推計)の32兆6,595億円は「税込」と「税抜」のサンプルが混在していたため、「税込」で回答された値を「税抜」に補正(1.08で割り戻し)したうえで2019年SC年間売上高を推計しています。なお、上記補正後の2018年のSC年間売上高(税抜)の推計値は31兆7,160億円となります。

この件に関するお問い合わせは 情報企画部:金田・菰田・高橋
TEL:03-5615-8524

※お手数をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送りくださいますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当:高橋・村松・大内・浅田
Tel.03-5615-8524/Fax 03-5615-8539
Mail.pr@jcsc.or.jp